

校友時報

号外
平成2年7月24日
現代版校新聞部

サヨナラ

タイムリー

ヒット

大商2000100003
能代0001001002X4X

一回表ビッチャー・工藤はコントロールの定まらない立ち上がりで攻められ、いきなり先制点を上げられ、さらに続くバットにタイムリーヒットを浴び、ビッチャーはこの日ファーストに入っていた成田に交代、我が校は初回から二対二と苦しい出しとなった。

我が校は四回裏、先頭バッター七番(ビッチャー)成田が振り逃げで出塁、続く八番(ライト)菊池(忠)の送りバントで二塁へ、しかし四回から九番へ入った(キャッチャー)小林のショートゴロで二塁ランナーが三塁ホームアウト、ツーアウトランナー一塁となっていたが、一塁ランナーはすかさず二塁・三塁へと進塁、続く一番(セッター)田中がフォアボールで出塁、ランナー・三塁とし、相手ビッチャーのワイルドピッチで三塁ランナーが帰期待望の一点、波に乗るベンチだが、二塁ランナーが牽制球で刺され、スリーアウトチェンジの回は一点止まりとなった。

しかし、大館商業は五回表先頭打者の五番(ファースト)北林はファーストライナーに倒れたものの、続く六番がフォアボールで出塁、ここで能代はビッチャーをエース工藤に交代、七番をむかえた。工藤はい

きなりヒットを打たれランナー一・二塁とされ八番を三塁に取ったものの、続く九番がフォアボールで出塁、死満塁のピンチ、工藤は緊張したのかフォアボールで押し出し、この回三対一とされ差を広げられた。能代は七回裏、サードのエラーを誘い一点追加三対二とつめよったがこの回も一点止まり。工藤は八回・九回を三人で打ち取り、能代は九回裏最後の攻撃、九番(キャッチャー)小林がデッドボールで出塁のあと一番(セッター)田中が送りバント、続く二番(セカン)須合がヒットでランナー・三塁と一打逆転のチャンス、このチャンスに三番(ショート)梅田はスクイズを決めついに同点、バットは、この試合4打席3死球と打つ場面

ベスト8入り!



能代・工藤の活躍

前号のホームスチールはスクイズの間違いです。



決勝打を打った 大山 隆幸選手

能代	投手	捕手	一・二塁	三塁	遊	左	中	右
工藤 崇	渡辺 幸一	小林 武彦	須合 亮	菊池 和仁	菊池 和仁	菊池 和仁	菊池 和仁	菊池 和仁
3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年

校友時報

号外
平成2年7月27日
現代版校新聞部

がんばった

硬式野球部

善戦空し

七年ぶりの

ベスト8

(長沼球場・七月二十六日)
能代0001000000
中央00010101X3

試合は初回から激しい投手戦となり、両校とも三回までは無得点に抑える素晴らしが出た。二回裏、能代投手の最良の投球で、三回裏に三番・四番の連続安打で得点圏にランナーを

三年生最後の応援

今回の試合は準々決勝というところもあり、補習中にもかかわらず三年生が応援に駆けつけた。三年は自ら進んで大きな声援をおくっていた。また、山本先生も子連れで球場に応援に来ていて一塁側スタンドは大変盛り上がった。試合後山本先生にアイス屋の前でインタビューしたところ「大変おもしろい試合だった」と話しておられた。

尾形監督に聞く

「今回の試合で選手はみんなそれぞれの実力を出し切っていた。工藤もよく投げてくれたしみんなよくがんばったと思う。全力でやったのだから、それより相手の力がやうちのチームを上回っていたのだから悔しい。来年からは先輩達を見習い、悪いところを一つずつなおしてがんばりたい。」と話しておられた。

校友時報

号外
平成2年7月27日
現代版校新聞部

がんばった

硬式野球部

善戦空し

七年ぶりの

ベスト8

(長沼球場・七月二十六日)
能代0001000000
中央00010101X3

試合は初回から激しい投手戦となり、両校とも三回までは無得点に抑える素晴らしが出た。二回裏、能代投手の最良の投球で、三回裏に三番・四番の連続安打で得点圏にランナーを

三年生最後の応援

今回の試合は準々決勝というところもあり、補習中にもかかわらず三年生が応援に駆けつけた。三年は自ら進んで大きな声援をおくっていた。また、山本先生も子連れで球場に応援に来ていて一塁側スタンドは大変盛り上がった。試合後山本先生にアイス屋の前でインタビューしたところ「大変おもしろい試合だった」と話しておられた。

尾形監督に聞く

「今回の試合で選手はみんなそれぞれの実力を出し切っていた。工藤もよく投げてくれたしみんなよくがんばったと思う。全力でやったのだから、それより相手の力がやうちのチームを上回っていたのだから悔しい。来年からは先輩達を見習い、悪いところを一つずつなおしてがんばりたい。」と話しておられた。

進め続く五番(サード)菊池(和)はセッター・ランナーに倒れたが、続く六番(ビッチャー)工藤がフォアボールで出塁、二死ながら満塁の先制チャンス、このチャンスに続く七番(ファースト)成田はフォアボールを選びこの一回一点を先取した。しかし、その裏三番(ビッチャー)金がセッターのエラーによりランナー・二塁とした後、続く四番(キャッチャー)川本が送りバントでランナーを三塁へ進めた。同点のランナーが出てあせる工藤は、打球フォームに入った瞬間走り出した三塁ランナーに取られてアウト、同点に追い付かれてしまった。なんとこの時点で点はない能代高校だが、中央の(ビッチャー)金の球をなかなか打ちくずせず苦戦、五回六回を三人で終わるなど完璧に抑えられた。

秋田中央は六回裏先頭打者の四番(キャッチャー)川本がセッターのミスで三塁まで進み能代はピンチを迎えた。続く五番(ショート)伊藤(亮)を三振に取ったものの続く六番(サード)高橋にスクイズを決められ、この回中央に一点リードをゆるした。ここまであまり調子のよくなかった中央のビッチャー・金は一点のリードを背に余裕のビッチングをみせ能代高校打線をビシヤリと抑えた。能代は八回裏に中央の五番(レフト)伊藤にホームランで一点追加され三対一と窮地に立たされた。九回表一点を追う能代は、ワンアウトから五番(サード)菊池(和)がライト(待望)のツーベースヒット、得点圏にランナーを進め、逆転の兆しが見えたが六番(ビッチャー)工藤はセカンドフライ、七番(ファースト)成田は三振にたおれ試合終了。今年は目立つ選手がいなかったと言われ、また、シード校にもならなかった本校だったが、ベスト8入りはならなかったものの、粘り強い戦いぶり、各回とも観客をわかせた好試合だった。今日の試合も応援に行った人たちが「最後まで負ける気がしなかった」と口々に言っていた。

秋田中央高校 塚田丈也監督談話

「うちは今日打線がいまいとつた。先に点を取られて少々焦りが出た。能代高校はとてもしっかり強いチームであり、大変手こわい相手だった。連続完封については立ち上がり投手の調子が悪かったのが原因といはれおもしろい。準々決勝の相手の能代商業には毎年悔しい思いをさせているので、今年こそは勝ちたい。」と、喜びを満面に浮かべて話して下さった。

能高ナイン帰校

二十六日の午後六時二十分ごろバスで学校へ到着した野球部は玄関前に整列し塚田主将が出迎えた先生や父兄に対し「準々決勝で負けてしまいましたが全力でがんばりました。応援ありがとうございました。」と挨拶した。その後校長先生から「よくがんばってくれた。諸君は優秀な選手だった。一・二年生はこれまで先輩達がつかって来た野球魂を受け継いでこれからがんばってほしい。三年生は少し休んでこれまで野球へ向けてきた力を卒業まで勉強へ向けてがんばってほしい、ごくろうさん。」との話があった。

